

<目指せ！1等米比率90%以上！！>

コシヒカリの播種は4月26日頃から！ 田植えは5月15日頃を中心に

☆育苗計画の目安 ~育苗日数(播種から田植日まで)は19日間以内を目安

消毒	浸種開始	播種	田植え	(育苗日数)	出穂期
4/7(木)	4/8(金)	4/19(火)	5/10(火)	(21日)	8/1頃
4/16(土)	4/17(日)	4/26(火)	5/15(日)	(19日)	8/4頃
4/24(日)	4/25(月)	5/3(火)	5/20(金)	(17日)	8/7頃

育苗日数が長くなり、老化苗を移植すると初期の分けつが減少し、収量に影響します。**育苗期間が長くなり過ぎないように注意しましょう！**

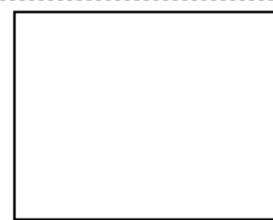
☆育苗のスケジュールと作業内容

月日	作業	温度管理	作業管理のポイント																		
4/16	比重選 種子消毒	水温 10~15°C を確保	<p>① 比重選で種籾を厳選~病気や発芽不揃いをしっかり予防~</p> <ul style="list-style-type: none"> ・硫安による発芽障害を防ぐため、比重選した種籾は水洗いを行う。 <p>② 種子消毒を徹底し、病害の発生を予防 (必ず化学農薬で消毒)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・モミガードC水和剤200倍液で24時間浸漬する。(水温10~15°Cを維持！) ・消毒中、種籾袋を2~3回上下に攪拌し、種子を完全に浸漬する。 ・消毒液の使用は1回限り(繰り返し使用しない)。 																		
4/17	浸種		<p>③ 浸種は積算温度を十分に確保</p> <p>~水温×日数=積算温度100~120°C程度が目安~</p> <ul style="list-style-type: none"> ・催芽を揃えるため水温は10~15°Cとし、籾容量の2倍の水に浸漬。(特に、浸種を開始した初日の水温確保(12~13°C)が重要！) ・2日に1回は水を交換し、酸素不足を防ぐ。 ・浸種期間の後半になったら必ず籾を確認し、芽が動いていたら浸種を終える。 																		
4/25	催芽	育苗器温度 28~30°Cで 20~24時間	<p>④ 芽が伸び過ぎないように、こまめにチェック</p> <ul style="list-style-type: none"> ・催芽をそろえるため、1日2~3回袋を反転させる。 ・均一に播種するため、種籾の水切り(脱水)は十分に行う。(籾が手に付かない程度にまで陰干しを行う。) 																		
4/26	播種 出芽	育苗器温度 30°Cで2~3日	<p>⑤ 播種はうす播き(乾籾 120g/箱)が基本</p> <p>⑥ 育苗器の温度は30°Cが適温~こまめに温度や出芽状況をチェック~</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前にサーモスタットの温度計測が正確なのか確認する。 																		
4/29	搬出 緑化	ハウス内温度 昼: 25°C以下 夜: 10°C以上	<p>⑦ 芽の長さが1cmに揃ったら搬出</p> <ul style="list-style-type: none"> ・搬出時には必ずかん水！ ・日射が強く高温の場合は搬出直後でも換気する。 ・緑化後、速やかに被覆資材をはずす。 																		
5/1	硬化		<p>⑧ ハウス内の温度が25°C以上にならないよう換気を徹底かん水は朝にたっぷり！日中は床土の乾きに応じて！</p> <ul style="list-style-type: none"> ・田植えの7~10日前からは昼夜ともに換気し、十分外気に慣らす。 																		
5/15	田植え		<p>○育苗期間中の病害対策</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>対象病害</th> <th>使用薬剤名</th> <th>希釈倍率</th> <th>散布量</th> <th>防除時期</th> <th>使用回数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>白カビ、青カビ</td> <td>ダコレート水和剤</td> <td>1,000倍</td> <td>1,000cc/箱</td> <td>播種14日後まで</td> <td>2回以内</td> </tr> <tr> <td>ムレ苗、苗立枯病</td> <td>ナエファインフロアブル</td> <td>1,000倍</td> <td>500cc/箱</td> <td>播種時から緑化期</td> <td>2回以内</td> </tr> </tbody> </table>	対象病害	使用薬剤名	希釈倍率	散布量	防除時期	使用回数	白カビ、青カビ	ダコレート水和剤	1,000倍	1,000cc/箱	播種14日後まで	2回以内	ムレ苗、苗立枯病	ナエファインフロアブル	1,000倍	500cc/箱	播種時から緑化期	2回以内
対象病害	使用薬剤名	希釈倍率	散布量	防除時期	使用回数																
白カビ、青カビ	ダコレート水和剤	1,000倍	1,000cc/箱	播種14日後まで	2回以内																
ムレ苗、苗立枯病	ナエファインフロアブル	1,000倍	500cc/箱	播種時から緑化期	2回以内																

○比重選液の作り方の目安

種籾	比重	硫安 (水10ℓに)
うるち	1.13	2.5kg
もち	1.08	1.5kg

種子消毒は確実に！



○催芽の目安
ハト胸~2mmまで

隙間を作ることで、多くのかん水をムラなくしみこませる！

育苗箱のイメージ！

低温が予想される場合は搬出を見送るか、搬出時のかん水はせに被覆資材で保温に努める。

かん水に用水を用いる場合は、ムレ苗に注意！

※浸種の開始を早めない！
冷たい水に長く漬けるのではなく、適温の水に10日程度しっかり漬けて積算温度を確保しましょう！

葉焼け注意！

※ハウスの強風対策は万全に！
強風が予想される場合は、予め育苗ハウスのビニールや防風ネット等の損傷やゆるみなどを点検し、必要に応じて補強しましょう！

育苗19日間

春の土づくり

～いざ土づくり！ 美味しい富山を届けよう！～

高温や多雨などの気象変動に打ち勝つ米づくりのためには、強い稲体づくりが大切であり、その土台となる「根」を育てる「土づくり」が重要です。

土づくり資材や有機物の施用や深耕による「春の土づくり」で、地力の向上に努めましょう。

☆土づくり資材の施用

- 珪酸は稲の茎葉を丈夫にし、葉を直立させる効果があるほか病害虫に対する抵抗性を高めるなど、収量・品質の向上に効果の高い成分です（図1）。また、近年、発生が増えているごま葉枯病は、珪酸分その他、カリ、鉄分含量などの低下により発生が増加します。
- 腐植が少ない砂質や砂壤土等のほ場では、**発酵鶏ふんなどの有機物を積極的に施用**し、地力の維持や向上（カリ等の補給効果有り）に努めましょう。
- 土づくり資材の施用は継続**することで効果が現れます。**昨年の秋に施用していない場合は、耕起前に土づくり資材を確実に施用**しましょう（春施用）（表1）。

表1 主な土づくり資材の施用の目安

資材名	施用量 (10a 当たり)	特性等
スーパーエスアイ加里	60～100kg	珪酸、アルカリ分、リン酸、苦土などが一度に散布できます。
シンキョーライトP	60kg	含有成分のゼオライトは保肥力を高めます。根張りを良くし、安定収量と品質向上につながります。
スーパーけいさん鉄	60～100kg	珪酸のほか、鉄分を多く含んだ資材で、アルカリ分も高く、土壌の酸度矯正につながります。
発酵鶏ふん	(春施用) 75～100kg	腐植含量を高め、カリ等も補給できます。

※発酵鶏ふんを春に施用する場合は、基肥を窒素成分で1～2kg/10a 減肥する。
 (例) Jコートコシヒカリ1号（窒素成分21%）
 40kg/10a 施用の場合、30kg～35kg/10a 程度に減肥する。

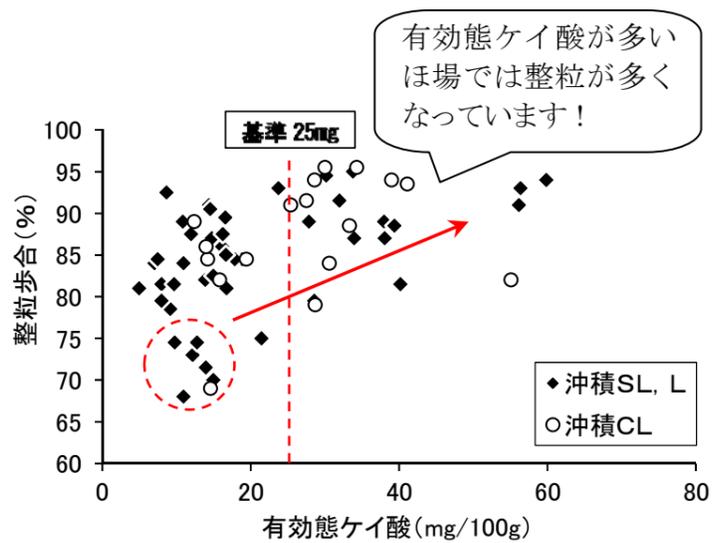
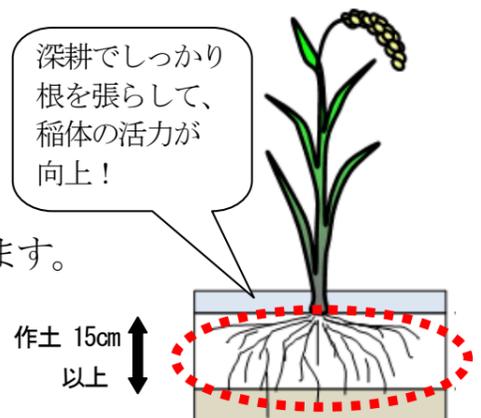


図1 有効態ケイ酸と整粒歩合の関係
 注) H27年度土壌分析結果（沖積土壌）

☆深耕の実施

- 深耕によって作土層を深くすると、根圏が広がり根が十分に伸びることができます。深く伸びた根は収穫まで稲の活力を維持し、収量・品質の向上につながります。
- 耕起の際は、トラクターの速度を落とし、ロータリーの回転数を遅くして、**作土の深さ20cmを目標に、15cm以上の確保**を目指しましょう。



令和4年 春の農作業安全確認運動

4月1日～5月31日

「しめよう！シートベルト」

春の農繁期は農作業事故が発生しやすい季節です。農場や用水路の危険箇所の把握・改善や余裕をもった作業計画など、事故を未然に防止する対策を徹底しましょう。



トラクター運転時にはシートベルト装着
!!
 ※昨年、全国でトラクターの転落・転倒事故が多発しました。

★富山市農協ホームページで営農情報の提供を行っています★

<http://www.ja-toyamashi.or.jp/jouhou/> こちらで検索！

JA 富山市 営農情報

検索